

多古町まちづくり志民活動助成事業報告会 総評

令和 7 年 3 月 23 日
多古町まちづくり審査委員会

昨今における人口減少や少子高齢化その他社会情勢の変化により、行政だけでは地域課題を解決できない時代に変化しつつあります。また、当該課題は多岐に渡り、人材不足、あるいは、課題解決に資する能力などについて危惧されている状況であると感じているところです。

このような現況を鑑みると、行政だけがまちづくりの主体となるのではなく、地域住民の方々と共同によってまちづくりを推進していく「共創」の時代へと変容してきているのではないのでしょうか。また、志民団体の皆様からご提案いただいた「志民協働」による活動そのものが、行政による地域課題の解決に当たり強力な支援となっていることと存じます。

つきましては、志民団体におかれましては、事業を企画、提案するに当たり、当該活動の意義を考え、幅広い視野をもって取り組まれることが肝要であると感じている次第です。

ご提案くださった事業を具体例として申し上げます。「多古城郭保存活用会」にあつては、地域の魅力発掘、情報発信、ブランド力の向上、さらに、デジタル化へのチャレンジが本企画に盛り込まれていたと思料します。

つぎに、「多古町DX推進委員会」にあつては、地域のDX化や教育分野との連携について、また、「多古ミュージックサロン」にあつては、多古らしいライフスタイル、文化振興について、最後に「たこふり実行委員会」にあつては、移住促進やにぎわい創出といった観点から企画提案されているかと存じます。

先述したものは、全て行政課題として、町の上位計画である総合計画にも挙げられているものであり、これら様々な分野における課題解決に資する志民団体の提案は、行政にとっても双方のネットワークの構築に繋がるものであります。また、志民団体が行政と連携することにより、幅広く事業活動が展開され、ひいては、当該活動そのものが活性化することに繋がるものと考えられます。

このように、行政課題の解決と密接に関連した活動を展開していただけますことは、我々審査委員にとりまして、大きな期待を抱くものでございます。

この度は、ご提案を賜りましたことに改めて感謝申し上げますとともに、今後の志民団体による更なる事業展開を祈念いたしまして、本年度助成事業に関する総括とさせていただきます。